

2019 年度事業計画

I. 調査研究事業部門

基本方針

情報通信技術の進展や健康志向、コンプライアンス志向の高まりなど、社会環境の変化は、人々の価値観、人間関係、消費行動や個人の嗜好に大きな影響を及ぼしていると考えられる。それに伴い、たばこを始めとする酒、茶、コーヒーといった様々な嗜好品の社会的位置づけも変化してきている。これら嗜好品に関する諸情報と関連する社会の動きを読み解き、嗜好品の個人的・社会的・歴史的な存在の意味を考え、その研究成果を提供していくことの必要性はますます高まっている。TASC はこれに応えるため、嗜好品を手がかりに、現代における人間の嗜好、心理、欲求、価値観、行動及び個人と社会との関わり等について、心理学・社会学等の研究手法を用いた調査研究を継続的に実施していく。また、嗜好品に関する人文・社会科学分野の研究を促進し、学術の振興に寄与することを目的に、大学等の研究者への助成を引き続き実施する。調査研究によって得られた成果については、学会発表、論文投稿を行い、併せて、これに関する考察を財団機関誌や研究誌等の定期出版物、TASC ウェブサイトを通じて広く国民への普及啓発を図る。

1. 調査研究事業

2019 年度に計画する主な調査研究は次のとおりである。

(1) 嗜好品と人間・社会に関する調査研究

TASC が実施してきたこれまでの心理学および社会学研究の成果を踏まえ、嗜好品に関する心理学および社会学各領域の調査研究を実施する。研究の遂行にあたり、自主研究の他、外部の研究者との共同研究の実施や研究会を開催する。それらの研究成果については、学会発表や学会誌への投稿を行うとともに、財団機関誌や TASC ウェブサイトにおいても積極的に普及啓発を行う。

(2) 嗜好品文化研究

「嗜好品文化研究会」と共同で、嗜好品に関する横断的なテーマについての研究会、嗜好品文化フォーラムの開催、並びに大学院生を対象とした研究奨励事業を行う。

(3) たばこ史・たばこ産業史研究

TASC に蓄積されたたばこ史に関連する資料整備を踏まえ、在野の研究者や大学等研究機関の研究者との連携を強化し、たばこ史・たばこ産業史研究を行う。

(4) 研究関連情報の整備

参考文献や研究報告書等、たばこを始めとする嗜好品に関する諸情報につい

て研究関連業務への効果的な活用を図るため継続的な資料整備を実施する。

2. 研究助成事業

嗜好品に関する人文・社会科学等の分野の研究を促進し、学術の振興に寄与することを目的として、日本国内の大学・研究機関等に所属する研究者を対象に研究助成を実施する。研究助成の成果は、助成研究報告書を作成し、国会図書館に納本するとともに、TASC ウェブサイトで公開する。

3. 普及啓発事業

普及啓発活動は調査研究活動の成果等を広く国民に提供する目的で実施するものである。2019 年度に計画する主な普及啓発活動は次のとおりである。

(1) TASC 定期出版物の発行

① 「談」

様々な分野の研究者・有識者へのインタビューを通じて、時代と共に変化する社会の大きな流れを読み解き、次の時代を生きる価値観を模索するための研究誌として、年間 3 回発行する。

② 「TASC MONTHLY」

財団の活動状況報告及び様々な分野の研究者・有識者による、現代に生きる人間及び社会に関わる論考やエッセー等を掲載して毎月発行する。

③ 「たばこ史研究」

大学等研究機関の研究者および在野のたばこ史に関する研究者の論文等の発表の場として、年間 3 回発行する。

④ 「平成 30 年度事業概要」

(2) TASC ウェブサイトによる情報発信

嗜好品研究やその考察を通じて浮かび上がった現代社会の諸問題について、背後にあるメカニズムや本質、問題を克服するための方法等に関する有識者の論考・示唆を取り纏め、TASC ウェブサイトに TASC MONTHLY 特別シリーズとして、引き続き情報発信を行う。2019 年度は、「情報テクノロジーの進展がもたらす近未来社会の姿を考える」を継続して掲載する。

4. 受託調査研究事業

現代社会の諸問題等に関する講演会の企画・実施

II. 博物館事業部門

【重点項目】

博物館ミッションおよび2021年度を目途とする博物館中期計画に基づき、安定かつ充実した博物館運営と情報発信力の維持を最優先として、円滑かつ安定的な運営を行う。

1. 博物館機能の充実

- (1) 常設展示を含めた展示内容・施設の改善に着手する。
- (2) 調査・研究について、従来からの継続テーマは続行しつつ、新たなテーマの方向性に関しても探索を進める。
- (3) ICOM 京都大会をはじめ国際会議への積極的な参加や、様々な博物館関係協議会等への参画を通じて、今後の博物館運営・活動改善のための知見を獲得する。

2. 安定的な事業運営

- (1) 常にコスト意識を持ちつつ、メリハリある経費配分により、計画性ある事業運営を行う。
- (2) 職員のライフ・ワーク・バランスを重視した職場環境の改善を図る。

3. 効率的な広報活動の展開

若年層をターゲットとした SNS 系広告の展開も含め、タイムリーかつ有効なメディア展開による広報活動を行う。

4. 地域社会との良好な関係維持

行政および近隣社会との良好な関係を維持しつつ、他博物館・資史料館等との連携を強化する。

【事業活動】

1. 調査・研究活動

2019年度の活動にあたっては、これまで取り組んできた「たばこと塩の歴史と文化」に関わる調査研究および収蔵資料に関する調査研究という2つの大きなテーマによる構成は継続しつつ、新たなテーマに関し方向性の模索を行う。

2. 情報発信活動

- (1) 特別展
特別展5回の開催。
- (2) イベント・講座

たばしお講座（10回程度）、古文献・古文書を読む会（毎月）、たばしお寄席（2回程度）および塩の実験イベント（夏期以外の5日程度）の開催。

(3) 刊行物

「2018年度年報34号」、所蔵品図録ミニチュアの改訂版、たばこ製造機械に関する「報告書」を作成する。

(4) 常設展示・視聴覚ホール・図書閲覧室

- ① 江戸時代のたばこ文化コーナー（6～8回）およびコレクションギャラリーの展示替（3～5回）。
- ② 特別映画や特別展の内容に合った文化映画上映（土・日曜、祝日等）。
- ③ 図書閲覧室の円滑な運用とともに、図書資料データの入力および配架整理作業等をすすめ、情報発信機能を強化する。
- ④ 既に導入した日本語・英語・中国語・韓国語の音声ガイドに続き、スペイン語の常設展示音声ガイドを制作・導入し、多言語化を着実に推進する。

(5) 周知 PR

展覧会や所在地周知 PR に加え、SNS 系（フェイスブック、インスタグラム等）も活用し周知 PR を図る。

3. 資料収集・整理・保存

- (1) 収蔵庫内の整備および収蔵資料のデータベース入力を行い、収蔵資料の保管・管理体制の確立をすすめるとともに、博物館に即した IPM（総合的有害生物管理）体制の確立を目指す。
- (2) 寄贈資料は、資料検討会で評価のうえ受け入れるとともに、寄贈者への適切なレファレンスを行う。優先度・必要度が高いと評価された資料は、JT と調整のうえ購入する。
- (3) ポスター、パッケージの実物資料やデータの収集をシステム化し、新製品の収集を継続する。
- (4) 資料の良好な保存のため、計画的に補修を行う。

4. その他の活動

(1) 人財育成・強化

(2) 総合案内・ミュージアムショップ

新たな来館者サービスや商品ラインナップの充実等、来館者満足度の向上を図る。

(3) 地域との協調

(4) 博物館実習の受け入れ

6 大学、各校 1 名。